

2003 年度 委員会活動成果報告

(2003 年 3 月 15 日作成)

委員会名	新プレキャスト構造小委員会	主 査 名：塩原 等
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (鉄筋コンクリート構造運営委員会)	委員長名：西川孝夫 主 査 名：林 静雄
設 置 期 間	2001 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	a) 性能評価型設計法の枠組みの適用によるプレキャスト鉄筋コンクリート構造設計指針の拡張 (2001~2004 年度) b) プレキャストコンクリート接合部を含む構造物材の構造実験による標準性能評価プロトコルの提案 (2001~2004 年度) c) 少子高齢化社会に伴うストック型社会に対応した鉄筋コンクリート構造物に期待される技術のニーズの動向に関する調査 (2003~2004 年度)	
委員構成 (委員名(所属))	塩原等(東京大学), 飯塚正義(不動建設), 和泉信之(戸田建設), 磯健一(日本国土開発), 今井弘(筑波大学), 金子佳生(東北大学), 倉本洋(豊橋技術科学大学), 佐々木仁(フジタ), 田中仁史(京都大学), 西山峰広(京都大学), 白都滋(東急建設), 福山洋(建築研究所), 増田安彦(大林組), 芳村学(都立大学)	
設置 WG (WG 名: 目的)	接合部の変形挙動を考慮した設計法 WG: プレキャストコンクリート構造部材の変形の評価及び変形を許容する設計法を構築するための具体の検討を行う。実験性能評価 WG: 構造実験に基づくプレキャストコンクリート造建物の構造設計のための実験方法や結果評価に関するプロトコルを整備して性能評価型設計に反映させ, 新構造システムの円滑な実用化できるようにするための枠組みの原案を作成する。	
2003 年度予算	330,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	新プレキャスト構造小委員会: 7月14日(6名), 9月26日(6名), 11月27日(7名), 3月2日(6名)計4回 接合部の変形挙動を考慮した設計法 WG: 5月13日(7名), 8月19日(7名), 11月12日(4名), 2月17日(6名), 計4回 実験性能評価 WG: 11月6日(7名), 12月19日(9名), 2月4日(8名) 計3回
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>小委員会においては、連続公開討論会「プレキャストコンクリート構造システム・これからの時代のニーズと可能性」4回を企画実施した。</p> <p>2003年7月14日「リユースを考慮した接合部設計」</p> <p>2003年9月26日「免振とプレキャスト」</p> <p>2003年11月27日「壁式プレキャストコンクリート改修」</p> <p>2004年3月2日「SI建築へのプレキャストコンクリートの利用」</p> <p>プレキャストコンクリート構造に関して講師を招き一般参加の会員とともに最近の社会的なニーズに関する公開討議を行い、現状についての認識を深めた。</p> <p>小委員会の設置目的を達成するために、小委員会の下に2つのWGを設置して、諸外国の基準の情報収集と整理、成果物の原案の作成と検討を行っている。最終年度に報告書としてとりまとめの予定。</p>
	委員会 HP アドレス:
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 予定通り
その他評価すべき事項	なし